

## 右ハンドル 左ハンドル

志村 良知

日本では最近、高級外車でも右ハンドルが多くなり、左ハンドルは稀であるが世界的にみると右ハンドルは少数派である。

私も海外駐在先は『車は右』の国で、左ハンドル車に乗った。駐在して初めてマニュアルで運転する、という同僚が片手ハンドルでやらなければならない操作の複雑さに「こんなことを利き手でない左でやらせる右ハンドルは間違っている、左ハンドルが正しい」と言ったが、そういうことではないと思う。

自動車の前身は馬車である。多頭立て大型馬車の場合、御者は右端に乗って鞭を振るう。その鞭を避けるために馬車がすれ違う時は自分が右に寄り、追い越す時は前の御者の鞭の不注意打ちを喰わないように左から行くのが自然である。つまり、『車は右』の国は大型馬車のルールをそのままに踏襲している。

では右端に乗っていたドライバーは何故左になったのか。左ハンドルを確立したのはT型フォードであるという。右側通行の場合、道路わきに寄せて人や物を積み下ろすには車内の右側が空間の方が便利、淑女が道路の真ん中側から降りするのは危険、とヘンリーさんが考えたのだろう、と言われている。理由はともあれ、T型フォードの大成功は『車は右』の国では左ハンドルで正解だったということになる。

英国は馬車の国であったであろうに何故『車は左』なのか。一説では英国の馬車は都市交通手段として生まれて発達したため一頭立てが多く、御者は一人真ん中に座り、すれ違いにも追い越しにも鞭の制限は無かった。そうなると停まる時には鞭を持っていない側に寄せる方が周囲に優しく自然だったからだ、という。

船に詳しい会員のNさんによると、船は昔舵が右にあったため、のっぺりした左側を岸壁に寄せた、今でもそれを原則としている。とのことである。『車は左』は操舵手が右で左側を寄せる船の昔のスタイルということになる。

日本の『車は左』は人力車時代に、英国流のすれ違いは左を採用したことによるらしい。